



本社全景



実用化を目指すEV(電気)バス

昨年4月の熊本地震後、順次業務を再開し9月上旬には完全復旧した(株)イズミ車体製作所(菊池郡大津町岩坂、國武幸弘社長)。特種車両の一つ「検診車」の生産台数・シェアは日本でもトップクラス。昨年は熊本県が推進する『ブライ企業』にも認定された。バスのEV化事業も本格化し、実証実験もスタートするなど躍進を続けている。

「品質日本一」を掲げ、業界トップクラスを維持へ 『従業員ファースト』の視点で、更なる躍進へ

株式会社イズミ車体製作所



納車車両の一つ



相次ぐ工場見学



歓迎会・慰労会で紹介された新入社員

『従業員ファースト』の視点で

昨年4月の熊本地震で工場、事務所などが被災したが、4月下旬には一部再開、5月の連休明けには震災前の85%、9月上旬には完全復旧。仕事の受注量の減少も地震の影響下で一時は心配されたが、それも杞憂に終わり、逆に例年以上の受注増加となった。仕事の繁忙期となる1月から3月は例年同様、フル稼働体制で乗り切った。

「今年の繁忙期は例年以上の超過密スケジュールでしたが、全社員の頑張りで年度末までの納車などを無事終わりました。社員の皆には本当に感謝しています」と労をねぎらう國武幸弘社長。同社の古庄忠信会長も「私たち製造業は、取引先が真のお客様であり、同時に企業として決して忘れてならないのが、『従業員ファースト』の視点だと考えています。従業員の頑張りあってこそその会社ですから」と話す。

マレーシアにEVバスを提供

検診車・特種車・福祉車両等のメーカーとして確固たる地盤を構築。今や日本自動車車体工業会の中でも、伝統と実績を誇る注目企業として成長。『品質日本一』を掲げ、取引先は熊本から全国に及ぶ。

一方、國武社長は「経済産業省の事業でスカニア(スウェーデン)製の

ディーゼルバスをEVに改造し、マレーシアに提供する仕事も行っています。先々はマレーシアで製造できるように、現地に出向いて技術を提供することになります」と話している。同社の古庄忠信会長の長年の夢である「路線バスのEV化」は、熊本大学大学院自然科学研究科の松田俊郎准教授と共同で推進している「大型車用EVシステム技術開発プロジェクト」は昨年6月、環境省のCO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業に採択され、今年中には実証実験が始まるという。

熊本県の『ブライ企業』に認定

業界シェアでトップクラスまで成長した同社には、年を追うごとに工場見学者が増えている。昨年7月以降では、日本自動車車体工業会特種部会、経済産業省、東京商工会議所などの団体をはじめ財務省の政務官を務める国会議員なども相次いで視察に訪れている。

また、従業員が働きやすい職場環境づくりに積極的な企業を熊本県が認定する2016年度の『ブライ企業』にも選定された。「お陰様で、県内の複数の大学の学生も視察に訪れるなどの効果が生み出されています。今後もブライ企業の名にふさわしい企業づくりに努めるとともに、新卒からU・I・Jターンの求職者の受け皿づくりにも継続して取り組んでいきます」

と國武社長。創造的復興元年となる熊本県、工業の面から熊本復興への貢献を図り続ける企業として期待が高まる。



profile

國武 幸弘 社長

くにたけ・ゆきひろ / 上益城郡益城町出身、1963(昭和38)年2月10日生まれの54歳、熊本商科大学(現・熊本学園大学)卒、81年熊本県対がん協会(現・公益財団法人熊本県総合保健センター)に入職、その後、2001年1月(株)イズミ車体製作所に総務部長として入社、02年取締役、04年常務取締役、08年専務取締役、14年8月社長に就任、趣味はゴルフと読書

DATA

所在地	〒869-1222 熊本県菊池郡大津町岩坂3258-4 (大津南部工業団地内)
T E L	096-279-1733
F A X	096-279-1666
U R L	http://www.izumishatai.co.jp/
創業	1931(昭和6)年
設立	1951(昭和26)年
資本金	4319万5千円
代表者	代表取締役会長 古庄 忠信 代表取締役社長 國武 幸弘
従業員	102人
事業内容	検診車・特種車・福祉車両の製造・販売、全車種車両の車検整備業、钣金塗装、バスEV改造、福祉車両レンタルカー業、中古車販売など
事業所	福岡営業所 東京営業所

採用情報

- 2017年実績/新卒1名、キャリア(中途)8名 計9名採用
- 連絡先/096-279-1733
- 人事担当/総務部 藤田